

■松田進勇 教育家、医学者。日本の植民地下の台湾人で、独自の思想「真・善・美」による杏林大学・病院の創立者。

まつだしんゆう

日露戦争始・1904＝ 日本統治が始まってまもない台湾の台南州斗六郡斗南街で、明の没落時に、鄭成功に従って渡来した漢人の末裔で、日本の庄屋にあたる家柄の曾亭の子に生まれる。

日露戦争終・1905＝ 1歳： 特急も停まる比較的大きな町で、近くには、藤山雷太(愛一郎の父)の経営する大日本製糖もあった。

アヲヲ創刊・1908＝ 4歳： 母が過労で死去したため、律儀で義侠心に富み、他人のために走り回る父の姿とともに、もともと、孔子を敬う土地柄の儒教から、強い影響を受けて育ち、

明治天皇没・1912＝ 8歳： 斗南に一つしかない小学校に入学すると、教師という存在に刺激を受けて、

大正政変・・1913＝ 9歳：

第一次大戦始1914＝10歳： 3年の頃には、将来小学校の先生になることを皆に披露、“校長先生”とあだ名されるほどで、上級学校への進学を志すようになる。

ロシア革命・1917＝13歳： 前年、師範学校を出たばかりの隣村の陳牛港が、志望者に、ボランティアで補習授業を開いてくれ、勉学が進むとともに、その献身的な姿に触れて、教師になる夢が具体化、以後、生涯、陳牛港を敬い続ける。

ベルリン条約・1919＝15歳： 12人の同級生とともに、開校まもない台南師範学校に入学。厳しい教育とともに、多くの敬愛すべき教師に出会い、ガキ大将ぶりも発揮して、さまざまな事件も起こした。

原敬首相暗殺1921＝17歳：

水平社結成・1922＝18歳：

関東大震災・1923＝19歳： 5番で卒業。台湾公学校教諭免許状を得て、台南州斗六郡大埤国民学校訓導になる。情熱溢れる教育が、問題教師とされてしまうなか、突然視察に訪れた台南州視学官に高く評価され、

護憲三派圧勝1924＝20歳： 模範校として新設された同郡斗六国民学校訓導に栄転するが、貧しくひ弱な児童に接し、間借りしていた開業医の仕事ぶりを眺めるなどするうち、医学を学んで医師になりたいという思いが深まって行き、

円本時代始・1926＝22歳： 3年間の義務が終わるや、退職して上京、

共産党事件・1928＝24歳： 3年前に新設の_日本大学医学科に入学。科長額田豊の、実践的な臨床医の養成という理念に啓発されながら、様々なクラブ活動の中心としても活躍。講演部長としては、中野正剛、松岡洋右、新渡戸稲造ら著名人を招いて、毎回盛況をきわめるなど、親分ぶりを発揮、ドイツ語教師の豪傑島田昌三は生涯の恩師となる。

満州事変・・1931＝27歳：

五一五事件・1932＝28歳： 5、6番で_卒業。内務省医師免許証も取得し、恩師松永琢磨の病院に勤務して修業、

国際連盟脱退1933＝29歳： まだ20歳の、昭和女子薬科専門学校生の初枝と結婚。さらなる進学をめざすも、父が倒れたとの電報に帰郷、九死に一生を得さしめて、再上京をめざすも、父に懇願されてとどまり、_台南州斗南街に松田医院を開設して診療に従事、日本の大学帰りということで、すぐに門前市をなすほどで、

芥川直木賞始1935＝31歳： 台南州担当の台湾公医(委任官待遇)に任じられ、

二二六事件・1936＝32歳： 請われて斗南街議会議員、さらには、_台湾総督府交通局医務嘱託になるも、勉学を怠らず、

日中戦争始・1937＝33歳：

大政翼賛会・1940＝36歳： _長男の教育を考え、突然、一家で台北に移住。それを機に、台北帝国大学医学部の薬理学教室の専攻科生となり、台湾出身の初の医学博士杜聰明の薫陶を受け、単なる師弟以上の絆で結ばれる。

日米開戦・・1941＝37歳：

・・・・・1942＝38歳：

創価学会検挙1943＝39歳： _修了すると、戦局が進むなか、再上京。恩師杜聰明の紹介で、まず、東京鉄道局医員の嘱託となるも、

年金+総武装1944＝40歳： 東京帝大出身者しか採用されない鉄道医官に任じられ、真摯な取り組みで、患者やその家族ばかりか、上司からも評価されるが、_学閥の壁はどうしようもなく、患者に貴賤なく接していることを同僚に咎められ、*ついに依頼免官。東京西荻窪の医院の持ち主と不思議な交渉をして譲り受け、恩師島田昌三からも借金して、松田病院の開設にこぎつける、まもなく敗戦。戦前のよしみもあって、国有鉄道医務嘱託医になる一方、苦学する若者の多さに、その面倒をみるべく、育英会のような取り組みも始める。

新憲法施行・1947＝43歳：

極東裁判決・1948＝44歳： 台北帝国大学での学位論文で医学博士となり、杉並区医師会理事にも選出される。

三大事件・・1949＝45歳： 日大の恩師で敬慕する八田善之進のため、荒廃していた社会保険横浜中央病院の再建に努め、

朝鮮戦争始・1950＝46歳： 正常な状態に回復させて辞任。日本大学から表彰状。東京都医師会代議員に選出され、

独立回復・・1951＝47歳：

東京駅長から感謝状。松田病院は順調に発展していたが、_結核の撲滅への理想に燃えて土地探し、元通産省の役人から、三鷹の旧軍部国有地を紹介され、大蔵大臣池田勇人と直談判し、かなりの安価で入手、

マーチン事件・1952＝48歳： *私財の全てを投じて、医療法人杏林会を設立し、

TV放送始・・1953＝49歳： _結核専門の三鷹新川病院を開院。

自衛隊発足・1954＝50歳： _二つの病棟(184床)、研究所、厨房、食堂、変電所、瓦斯変圧所、看護婦宿舍全てが完成。

以後、鉄道弘済会、日本銀行、中小企業金融公庫、国民金融公庫、航空宇宙技研、船舶技研、通産省機械試験場等の公的機関、多数の一流企業から委託指定を受け、その嘱託医や衛生管理医を務めることになる。

国連加盟・・1956＝52歳： _附属の准看護学院を設置、院長になると、かつての教育者の心が目覚め、看護婦養成に情熱、

インスリン欠・1958＝54歳： 息子の一人が日大工学部建築学科を卒業したの機に、_東京都民建設株式会社を設立、以後、自社建設。

美智子妃・・1959＝55歳：

安保闘争・・1960＝56歳： 日本大学創立六〇周年記念に当たり、表彰状。_精神神経科を増設し、一気に497床に。

全国総合計画1962＝58歳：

TV宇宙中継始1963＝59歳：

_一般科増設のために本館を建設、725床と飛躍。総合病院の承認を受け、_東京三鷹新川総合病院と改称、民間病院としては画期的な、インターン生の実地修練病院に指定され、屈指の一流病院へと躍進するなか、時代を先取りするように、臨床検査技師養成のための短期大学の建設を構想、教師になる医学者の発掘にも乗り出す。

国際外科学会会員(F・I・O・S)になる。_構内に、東京医学研究所を開設。

大学紛争始・1965＝61歳： “御大”と仰いで親交してきた池田勇人が癌で早世、生涯の恩人島田昌三が死去して悲痛するなか、

いざなぎ景気1966＝62歳： _学校法人杏林学園を設立し、杏林短期大学(衛生技術科)を開校。教育者として復活すると、

美濃部都知事1967＝63歳：

震ヶ関ビル・1968＝64歳：

大阪万博・・1970＝66歳：

*私立では戦後初の認可となる、杏林大学医学部の開設に漕ぎつける。独自の「真善美」の精神に基づき、患者のために、研究よりも実践的な臨床医の養成を目的とし、科のセクショナリズムを廃するという画期的なものであった。同時に、東京三鷹新川総合病院の施設をそのまま使って、付属病院も開設。

ドミノック・・1971＝67歳： 初代院長に迎えた高津忠雄による、「ベッドサイド・ティーチング」や「スモールグループ指導」によって、良き医師が次々養成され、それまでの常識を破った「新生児の小児科管理システム」も実現。

石油ショック1973＝69歳： 杏林短期大学は、教授陣の奮闘で、前年卒業の5期生は、国家試験合格率100%を達成、

クアンパル事件1975＝71歳： _准看護学院を吸収発展させ、杏林大学付属高等看護専門学校を開校。

田中角栄逮捕1976＝72歳： _杏林大学大学院医学研究科の設置が認可される。

成田衝突・・1978＝74歳： 八王子に、_予防から治療を一貫させるべく、杏林短期大学を発展吸収して、杏林大学保健学部を設置。

革新大敗北・1979＝75歳： 付属病院に、東京都では四番目の救命救急センターを開設、

中曽根内閣・1982＝78歳：

デイズ・ユラント・1983＝79歳： 八王子キャンパスには、_よりバランスのとれた人材をと、杏林大学社会科学部を開設、

・・・・・1984＝80歳： 杏林大学大学院保健学研究科設置。長男博清を副学長にして、身を引き始め、

ジャンボ機墜落1985＝81歳： 病床数は1000を超え、*東京都下では最大の医療センターになったのを見届けて、

パブル始・・1986＝82歳： 勲二等瑞宝章を授与される。

リクルート事件・1988＝84歳： _没した。

松田進勇先生伝記刊行会「松田進勇伝」、